

【特別対談】  
法然上人八百年大遠忌  
「ともい、いき」の  
心を伝えたい

法然上人を宗祖とする浄土宗では、2011(平成23)年4月より八百年大遠忌記念事業の最終年度に入り、集大成のときを迎えている。法然上人とはどのような宗教者であったのか、法然上人が説いたお念仏による救済は何を意味するのか。法然上人の教えを現代に生かすには何が必要なのか。昨年11月より浄土門主を務める伊藤唯眞さんと浄土宗宗務総長の里見法雄さん。「凡夫の自覚に立ち、ともい、いきの社会の実現を」という共通の思いを抱くふたりによる対談をお届けする。進行役は、プロの語り部の平野啓子さん。



法然上人の御廟は、知恩院の最奥に位置する。拝殿に坐すと、法然上人の息遣いが感じられる。



知恩院の玄関というべき、三門。1621年、徳川幕府により建立された。木造の門としては世界一のスケール。



平野啓子 ひらの・けいこ

早稲田大学卒。NHKニュース番組キャスター、大河ドラマの語り、伝統芸能番組の司会等を務める。一方、名作・名文を暗誦するプロの語り部として国内外で公演。文化庁芸術祭大賞等多数受賞。大阪芸術大学教授、武蔵野大学非常勤講師。「法然上人をたたえる会」(\*)会員。

**平野** 浄土宗では、4月から、宗祖法然上人八百年記念事業の最終年度を迎えていらっしやいます。しかし、3月11日の東北地方太平洋沖地震の発生を受け、いち早く、総本山・大本山などで今春に予定されていた大遠忌法要を中心とする諸行事の延期を決定されました。

**伊藤** 被災者の方々の困窮を視野に入らずに大遠忌を勤めることは宗教者の良心に苦しみがかかります。時期は遅れても災害地の人々と共に念仏が唱えられればこれに勝ることはありません。

**里見** 総本山知恩院の大遠忌は今秋に延期され、ほかの多くの大本山の大遠忌も来年4月以降に実施の運びとなりました。この場を借りて、被災されたすべての皆様に謹んでお見舞いを申し上げます。

**平野** 大変な時期に、浄土門主・知恩院門跡として「宗祖法然上人八百年大遠忌」に臨む心境についてお聞かせください。

**伊藤** こういう苦難の時ですから、なおさら法然上人のみ教えが必要なのです。

**平野** 法然上人は、日本史の授業などでは、鎌倉新仏教の宗祖のひとりで、革命的な宗教者と教えられています。

**伊藤** 法然上人は、とても包容力のあつたお方だったと思います。たとえば、俗

信であつても、この世において過ごすために必要ならば、祈禱もよい、と容認されています。しかし、自分の信仰の核となる点においては、芯を持っておられました。「往生のためには絶対に祈禱では駄目。念仏が不可欠である」と。

**里見** 法然上人は寛容の人であられた。しかし、ご自身には非常に厳格な方でもありました。そこが、上人の魅力的な部分。

**凡夫の自覚と民衆への愛**

**平野** 法然上人が生きられた平安末期は、どんな時代だったのでしょうか。

**里見** 古代から中世への変わり目で、民衆は乱世の絶望にまみれて暮らしていた。仏教の歴史観でいえば、1052(永承7)年から末法(蓮)に入ります。

**伊藤** 法然上人は地方の豪族の家の出身で、父の漆間時国は土地争いに巻き込まれ殺されてしまう。そして、その報復の連鎖を断つため、仏門に入ります。末法

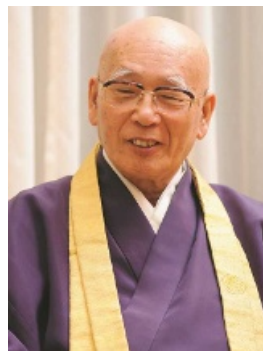


「法然上人が辿った道を再確認しなければならない」(里見法雄さん)

法然上人八百年大遠忌

\*「法然上人をたたえる会(会長・坂田藤十郎)」平成17年設立。現在会員は69名。メッセージDVD「ともいきがたり」の制作、学校や寺院への訪問企画「出前寺小屋」を行っている。

(注) 釈迦の死後1500年を経た後の1万年間。仏法が衰え、修行して悟る者のいない時代。



「ともいきの心を次の世代に伝えていきましょう」(伊藤唯眞さん)

の時代の凡夫が救われるための宗教を求めた上人は、やがて、もつとも易しい行であるお念仏の道に辿りつきます。

**平野** それまでの宗教は、厳しい修行を積み、高い学問を修めた者だけが救われるという傾向がありましたね。文字が読めず、経文を理解できない大多数の民衆は、仏教の救済に与れませんでした。

**里見** 法然上人は、お念仏の道に、身分、貧富、男女や年齢の違いによる区別はない、という立場に立脚していました。

**伊藤** 説法の中でも、救済から女性を外されているのは、「悲しきかな、恥ずかしきかな」と言われています。法然上人は、大多数を占めていた民衆の閉ざされた心に光を差し込ませようとした。法然上人は、民衆愛の宗教者だったと思います。

**平野** 上人が詠まれた「つきかげのいたらぬ里はなけれども、ながむる人の心にぞすむ」という有名な歌は、自分を見守ってくれる周囲の人への感謝の気持ちに



知恩院から、京の町を望む。遠く、西山の峰々も見える。

(右)総本山知恩院では、「八百年大遠忌法要」が、10月2日〜25日の間に行われる。(左)勢至堂は、法然上人の終焉の地。なお本年法然上人に8つ目となる大師号「法爾(ほうに)」が天皇陛下より加贈された。



気づかせてくれます。

**伊藤** 恩という字は、原因の「因」の下に「心」と書く。原因を知り、それに感謝する心を持つ。それが「恩」のもとの意味。今は、まさに「報恩」のとき。法然上人のご恩に報いるには、法然上人のなされたことをよく知る必要があります。

**里見** 「八百年大遠忌」に際しても、法然上人が万人に宗教的な愛を注がれたという点を忘れたのでは、どんなに盛大な法要を修しても意味はない。宗祖が辿った道を再確認し、法然上人の教えを次世代に継承していきたいと考えています。

**平野** 具体的にどうしたらよいのですか。

**里見** 浄土宗では、2001年元旦、法然上人の教えを4項目にまとめた「浄土宗21世紀劈頭宣言」を発表しています。宣言では、「愚者の自覚を」「家庭にみ仏の光を」「社会に慈しみを」「世界に共生を」と唱っています。とてもよく練り上げられた言葉で、これをスローガンに終わらせたくありません。

**伊藤** 人間は本来凡愚だという自覚に出

発し、「ともいき」の精神の対象を、家庭、社会、世界全体という具合に広がっていくところが、私も、素晴らしいと思います。

**平野** 現代社会は、自分自身、他人は他人という無縁社会だといわれますね。

**伊藤** 人は誰しもひとりでは生きられません。実際には、人間同士、いろいろな縁でつながっています。そのことに気づいてもらえるよう、まずは身近なところから、縁の網の目を広げていくよう活動を起こさなければなりません。

**里見** 伝統教団の宗教者として、宗祖の教えの宣布とともに、今後は、社会への貢献を果たすことが必要だと思います。

**伊藤** 単に八百年の時間が経過したのではなく、念仏信仰を持った人々が八百年を積み重ねてきた事実を噛みしめるところから、出発しなければなりません。その上で次なる五十年、百年と法然上人の「ともいき」の心を伝えていきましょう。

**平野** 私も、万人に対し、平等に救済の道を開いた法然上人の教えには、かねて共感を覚えてきました。「八百年大遠忌」を機に、私も、微力ながら、その思いを周囲に伝え、縁の網の目を広げていきたいと思っています。



「縁の網の目を広げていきたいですね」(平野啓子さん)



浄土宗  
Jodo Shu  
Buddhist Denomination

【提供】浄土宗 【企画制作】新潮社 【撮影】三原久明  
【協力】法然上人をたてる会